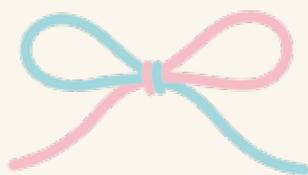


知ってほしい、里親のしくみ



里親制度は、さまざまな事情で家族と暮らせない子どもたちを一般の家庭で預かり、社会のみんなで育てていく「子どものため」の制度です。

10月は「里親月間」です。里親のこと、少し考えてみませんか。

問 子育て支援課 ☎26-2111
(内線268)

待っている子がいます

全国には、家族と離れて暮らす子どもが約4万5千人、県内には約5000人、東濃地域には約80人います。

さまざまな事情で家族と暮らせない子どもたちは、児童養護施設などで過ごすことが多いのが現状です。しかし、保護者に代わって子どもを育てる「里親」がいれば、子どもたちは家庭の温かさを感じながら生活することができます。

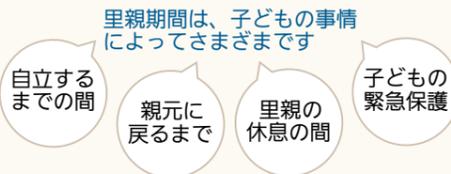
3月末時点で、県内で里親家庭で暮らす子どもは48人（東濃地域で9人）。家族と離れて暮らす子どもが500人いることを考えると、里親の数が不足していることが分かります。

里親の「形」いろいろ

里親にはさまざまな形があり、子どもを受け入れる期間も、大人になるまでとは限りません。

養育里親

事情があって家族と暮らすことができない18歳未満の子どもを、一定期間、自分の家庭に受け入れます。



養子縁組里親

養子縁組を結ぶことを前提に、里親として一緒に生活します。養子縁組が成立すると、同じ戸籍に入ります。



ちょっと関心がある方へ

短期

ショート里親 (施設のボランティア)

施設に入所している子どもを、週末や夏休みなど、一時的に家庭に迎えます。

里親には、特別な資格は必要ありません。心も体も健康で経済的に困っていない方、そして子どもに愛情と誠意を持って育てられる方であれば、里親になることができます。

里親になるまでの流れ

里親は、研修や面会を経てから実際の生活に入ります。

- 1 相談**
県東濃子ども相談センターか、子ども家庭支援センターへ相談ください。里親制度について詳しく説明します。相談は随時受け付けています。
- 2 研修と家庭訪問**
里親制度や子どもの権利擁護について学びます。児童養護施設などを訪れて実習も行います。その後、子ども相談センター職員などが家庭環境の調査を行います。
- 3 登録と認定**
県の審査を経て、県知事が里親として認定します。
- 4 子どもとの出会い**
子どもの紹介を受けて面会し、外泊したり一緒に外出したりして交流します。
- 5 里親として委託**
里親の家庭状況、子どもや保護者の希望などを考慮し、子ども相談センターが子どもを委託します。子どもとの生活が始まります。

Q&A もっと教えて里親のこと

県東濃子ども相談センターの松井美雪さんが、よく聞かれる疑問に答えてくれました。

Q. 子育ての経験がなくても、里親になれますか？
A. 大丈夫です。研修がありますし訪問や電話相談などでもサポートします。里親同士で悩み事や情報交換などができる「里親サロン」もありますよ。

Q. 自分の子どもがいても里親になれますか？
A. 大丈夫です。ただ、その場合は実子の意思も大切にしてくださいね。

Q. 共働きでもいいですか？
A. 子どもの養育に支障のない範囲であれば問題ありません。保育所や放課後児童クラブなども利用できますよ。

Q. 子どもを育てるには、お金もかかると思いますが…。
A. 必要な経費は県から支給されます。養育里親の一例では、里親手当(9万円/月)、生活費(約5万2千円/月)、その他、医療費や教育費などがあります。

まずは、 説明会に参加しませんか

11月に恵那文化センターで、説明会「里親を知ろう会」を開催します。まずは、説明会に参加してみませんか。さまざまな疑問にお答えします。

■とき 11月14日(日)

■ところ 恵那文化センター

■内容 ▽午前10時～正午 制度説明、里親の体験談 ▽午後1時～3時 個別相談会

■申込期限 11月11日(木)

■申・問 県東濃子ども相談センター
☎0572-23-1111(内線403)

里親のこと、いつでも相談ください

- 相談窓口
 - 東濃西部総合庁舎内
県東濃子ども相談センター
(多治見市)
☎0572-23-1111(内線403)
- 支援機関
 - 子ども家庭支援センター麦の穂
(中津川市)
☎0573-68-6858



東濃子ども相談センター 松井美雪さん(児童福祉司)

里親家庭で過ごす意味

子ども家庭支援センターの平井さんに、里親の大切さを聞きました。

里親家庭で「家族」を知る

さまざまな事情で家族と離れて暮らす子どもは、児童養護施設や里親家庭などで生活しています。

どちらにも良さがありませんが、里親家庭の安定した関わりと環境の中で育つことは、その子たちが自分の家庭を持ったときの、家庭のモデルの一つにもなると感じます。

里親さんと話していると、気分ったり戸惑ったり悩んだりしながら、少しずつ関係を築いていく様子が分かります。ここに紹介する手記にもそれが表れています。

子どもの発達には愛情が必要

子ども期は、成長、発達にとって大切な時期です。温かい愛情と、里親制度について正しい理解を持った里親家庭での生活は、子どもたちが健やかに成長する大きな助けとなります。子どもたちのためにできることを、少しずつ考えてみませんか。



子ども家庭支援センター麦の穂 平井公子さん(市町村連携コーディネーター)

里親体験記

生活の変化にワクワク (養子縁組里親Aさん)

私たち夫婦が里子と一緒に暮らし始めて、7年が経ちます。楽しいこともつらいこともありましたがあつという間だったなと感じています。

里子がうちに来たころ「魔の2歳児だね、大変だよ」と子育て中の友人に言われて、私は「3歳になれば変わるんだ、楽になるんだ」と思っていました。

ふたを開けてみればそんな甘いものではなく、3歳には3歳の、5歳には5歳の大変さがあり、大変なことが変わるだけだと分かりました。

里子は未満児から保育園に通っていて、私が迎えに行くときと走って抱き付いてくるのが習慣だったのに、年少の途中から「恥ずかしいから」と抱き付いてこなくなりました。また、私が手を出せばつないでく

れることが当たり前だったのに、小1の秋ごろ、「やめて」と払いのけられました。「子どもはこうやって親離れしていくんだ」と思うと同時に、寂しさを感じました。

それまでよく仕事のストレスを引きずっていましたが、里子が我が家に来てから一変しました。仕事を終えて帰宅し、里子の相手をしながら家のことを済ませて…という生活パターン。仕事のストレスを気にする暇もなく日常が過ぎていくようになりました。また、里子を通して保育園・学校関係・地域の人など、さまざまな人と関わるようになりました。

これから里子が成長して、さまざまな人と関わることになると思います。私の生活も変わっていくことになると思いますが、今からどきどきワクワクしています。



日常の幸せを教えてくれる (養育里親Bさん)

「かーちゃんは雑なんやて」これは、我が家に来て4年目になる小学生の里子からよく言われるセリフ。的を得てい過ぎて笑えます。

里子が我が家に来たころの私は「愛情深く気持ちに寄り添ってあげよう」「明るい家庭で活発な子に育てよう」など、たくさんのスローガンを掲げ、何かを埋めようと必死でした。里子の将来のためという名目のもと、日常は、こうしなければいけない、もっとこうなりたいの連続。余計な緊張がたくさんあったと思います。

振り返れば、委託されて間もないころ、里子是不登校になりました。家で私に当たるしかない里子と追い詰められていく私。より良い向き合い方より、一番自分がしたくない、里子と距離を置くことが救いになるという事実。いろんな現実を体験しました。(一部略)

そこから少しずつ少しずつ立ち直っていく過程で、主人や、本当にたくさんの皆さんの愛ある思いと支援をいただきました。つらい時に具体的な助けを差し伸べてくださることは、本当にありがたかったです。愛着について学ぶ機会に結び付いたことも大きかったと思います。

前の私は、一体何者になろうとしていたのでしょうか？ たぶん一生懸命だったのだと思います。今の私は、ありのままにいられると楽で、里子との関係性も楽しく、とらわれたりありのままにいられないと楽しくなくなることに気づき、正しいより楽しいを心掛けています。

一緒に食べることを大切に感じている里子は、分かち合う喜びを知っていて深いな一って思います。何気ない日常の中の幸せを教えてくれてありがとう。支えてくださっている皆さんに感謝です。(一部略)